

2022 年度 事業報告

公益財団法人鈴木万平糖尿病財団は、「糖尿病分野に関する研究者の国際的研究交流を助成し、あわせて我が国における同分野の研究者の育成を図ることにより、糖尿病学研究の一層の推進を図り、もって学術の向上発展に寄与する」ことを目的として、定款第 4 条に定める事業を実施している。

2022 年度（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）は、基本財産及び特定資産等の運用益により次に掲げる事業を実施した。

1. 定款第 4 条に定める公益目的事業

助成事業（公 1）	(1) 糖尿病の研究に従事する研究者の海外留学に対する助成 (2) 糖尿病の研究に従事する外国人研究者の招聘に対する助成 (3) 糖尿病に関する会議・シンポジウムに対する助成 (4) 糖尿病に関する調査研究に対する助成
褒賞事業（公 2）	糖尿病の予防・治療等における国内の優れた業績に対する褒賞
褒賞事業（公 3）	糖尿病に関する国内外の優秀な研究実績に対する褒賞

2. 2022 年度公益目的事業

助成事業及び国内褒賞事業については、2021 年度第 2 回理事会（2021 年 12 月 13 日）及び 2022 年度第 2 回理事会（2022 年 12 月 16 日）において承認された内容に基づき実施した。

2022 年度の海外留学助成決定者は 6 名であり、コロナ禍においても全員無事に留学が開始された。

本年度 2 回目となる若手研究者調査研究助成は、施設へ直接募集ポスターを配布(郵送)することで、10 件程度の助成予定に対して 48 件の応募があり、最終的に 14 件を採択したが、その後体調不良のため 1 件辞退があり、13 件となった。

会議・シンポジウムに関しては 3 件採択されたが、本年度は延期・中止等はなく予定通り 3 件とも Web ハイブリッドにて開催された。

2022 年度（第 15 回）糖尿病療養指導鈴木万平賞表彰式は、延期されていた 2020 年度（第 13 回）と併せて開催（リアル）され、記念パーティーはコロナ感染の拡大抑止のため立食ではなく、着席弁当の形で開催された。（2021 年度は該当なし）

国際褒賞事業については、2022 年 8 月 2 日開催の国際褒賞審査委員会で 2022 年度（第 15 回）鈴木万平記念糖尿病国際賞の受賞候補者 1 名が選出され、2022 年度第 2 回理事会（2022 年 12 月 16 日）において承認された。

本賞の表彰式・記念パーティーは、過去中止（延期）していた 2019-21 年度（第 12-14 回）3 回分と併せて、4 回分を 2023 年 3 月 8 日に経団連会館（リアル）にて開催した。

2022 年度公益目的事業の総括

公益目的事業	金 額	内 容
助成事業		
海外留学助成	1. 39,000,000 円	2022 年度新規分 (@650 万円×6 名)
同 上	2. 10,000,000 円	2021 年度継続分 (@500 万円×2 名)
外国人研究者招聘助成	0 円	@100 万円×0 件
会議・シンポジウム助成	3,000,000 円	@100 万円×3 件
調査研究助成	1. 10,000,000 円	2022 年度新規分 (@250 万円×4 件)
	2,000,000 円	同 上 (@200 万円×1 件)
同 上	2. 7,500,000 円	2021 年度継続分 (@250 万円×3 件)
同 上	3. 2,500,000 円	2020 年度継続分 (@250 万円×1 件)
	3,400,000 円	同 上 (@170 万円×2 件)
	1,600,000 円	同 上 (@160 万円×1 件)
若手研究者調査研究助成	18,000,000 円	2022 年度新規分 [若手研究者：満額]
		(@200 万円×9 件)
	7,200,000 円	同 上 [若手研究者：次点]
		(@180 万円×4 件)
事業推進費・事業運営費	5,590,383 円	募集関連費用・事業運営費用
選考委員会・面接選考	1,905,459 円	開催関連費用
合 計	111,695,842 円	
褒賞事業（国内褒賞）		
第 15 回糖尿病療養指導鈴木万平賞	6,216,150 円	2 件（個人 1 名、団体 1 件） 正賞楯・副賞・記念品
第 13 回・15 回合同表彰式	2,764,649 円	表彰式関連費用
事業推進費・事業運営費	3,321,860 円	募集関連費用・事業運営費用
第 16 回国内褒賞審査委員会	903,622 円	開催関連費用
合 計	13,206,281 円	
褒賞事業（国際褒賞）		
第15回鈴木万平記念糖尿病国際賞	21,351,185 円	1 名 正賞楯・副賞・記念品
第12回－15回合同表彰式	20,171,844 円	表彰式関連費用
事業推進費・事業運営費・業務委託費	7,830,810 円	募集関連・事業運営・業務委託費用
第15回国際褒賞審査委員会	1,668,628 円	開催関連費用
合 計	51,022,467 円	
総 計	175,924,590 円	

各公益目的事業の詳細は、附属明細書のとおりである。

附属明細書

1) 助成事業

海外留学助成 - 1 (2022年度新規分 6名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p style="text-align: center;">いわさき かなこ 岩崎 可南子</p> <p>京都大学 糖尿病・内分泌・ 栄養内科学</p>	<p>研究課題： 膵β細胞の老化制御因子の探索と糖尿病治療への応用</p> <p>研究項目： 膵β細胞の老化が2型糖尿病におけるインスリン分泌低下に重要であることが、受入先研究室により近年初めて明らかになった。一方で膵β細胞老化の分子基盤は未解明であり、その解明は膵β細胞老化抑制という全く新しい糖尿病治療標的の同定につながると期待される。このような背景から候補者は、細胞レベルでの膵β細胞老化シグナル経路及び老化抑制・促進因子の同定、及びそれらの病態的重要性の個体レベルでの検討を行うべく、本研究を計画した。</p> <p>研究機関： ジョスリン糖尿病センター</p> <p>研究指導者： Cristina Aguayo-Mazzucato</p> <p>留学期間： 自 2022年4月 至 2024年3月 (2年間)</p>
<p style="text-align: center;">ひむろ みわ 氷室 美和</p> <p>順天堂大学 代謝内分泌内科学</p>	<p>研究課題： 膵α細胞・β細胞制御因子の解明</p> <p>研究項目： インスリン分泌、グルカゴン分泌、CRISPR-Cas9</p> <p>研究機関： University of California, San Francisco</p> <p>研究指導者： Gregory M. Ku</p> <p>留学期間： 自 2022年7月 至 2025年3月 (2.8年間)</p>
<p style="text-align: center;">あらー なわず Allah Nawaz</p> <p>富山大学 医学薬学研究部 分子医科薬理学</p>	<p>研究課題： Elucidation of insulin signaling defects in muscle of type2 diabetes (T2D) using T2D patients' iPS-derived myoblasts.</p> <p>研究項目： 1. To define the molecular signature of insulin resistance. I will perform a global phosphoproteomic analysis of Type 2 Diabetes (T2D)induced pluripotent stem (iPS)cells-derived myoblast(iMyos) 2. To determine if iPS cells-derived from T2D patients exhibit unique different or exaggerated responses to external signaling that produce insulin resistance, such as exposure to cytokines, TNFα, and high levels of free fatty acids(FFA) 3. To assess the activity of the different novel PKCs implicated in insulin resistance in T2D iPS-derived iMyos and also determine their role in the altered phosphorylation through either knockdown and/or inhibitor studies.</p> <p>研究機関： Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： C. Ronald Kahn</p> <p>留学期間： 自 2022年4月 至 2024年3月 (2年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p data-bbox="188 297 347 347">おその い しょう 遅野井 祥</p> <p data-bbox="164 427 308 555">弘前大学 内分泌代謝 内科学講座</p>	<p data-bbox="422 282 1541 360">研究課題： 機能的腹側膵オルガノイドの創出に基づく発生生物学研究と移植への展開</p> <p data-bbox="422 383 1541 555">研究項目： ヒト膵発生を再現した手法により内分泌・外分泌・膵管を含むオルガノイドを作成する。発生、分化、糖代謝における役割が十分に解明されていない腹側膵に着目し、解析を行う。マウスへの膵オルガノイドの移植による糖尿病治療の可能性を検討する。</p> <p data-bbox="422 622 1023 651">研究機関： Cincinnati Children's Hospital</p> <p data-bbox="422 674 842 703">研究指導者： Takanori Takebe</p> <p data-bbox="422 725 1246 754">留学期間： 自 2022年8月 至 2025年3月 (2.7年間)</p>
<p data-bbox="188 792 368 842">いざわ しゅんたろう 伊澤 俊太郎</p> <p data-bbox="209 922 352 952">北海道大学</p> <p data-bbox="196 1070 368 1149">獣医学研究院 生化学教室</p>	<p data-bbox="422 799 1385 828">研究課題： 糖代謝異常と睡眠異常を関連付ける視床下部神経機能の解明</p> <p data-bbox="422 851 1541 1023">研究項目： 糖代謝と睡眠調節の両方を調節すると想定される視床下部神経をカルシウムイメージングと遺伝子改変マウスにより同定・標識し、オプトジェネティクス（光遺伝学）を用いた神経活動操作によって肥満と睡眠異常の負のサイクルの改善機能を明らかにする。</p> <p data-bbox="422 1046 1235 1075">研究機関： Max Planck Institute for Metabolism Research</p> <p data-bbox="422 1097 802 1126">研究指導者： Jens Bruning</p> <p data-bbox="422 1149 1222 1178">留学期間： 自 2022年4月 至 2024年3月 (2年間)</p>
<p data-bbox="188 1218 336 1267">かとう だいすけ 加藤 大祐</p> <p data-bbox="180 1279 379 1357">三重大学医学部 附属病院</p> <p data-bbox="233 1397 323 1426">病理部</p>	<p data-bbox="422 1225 1302 1254">研究課題： 加齢に伴うベージュ脂肪細胞の活性化抑制機構の解明</p> <p data-bbox="422 1276 1541 1355">研究項目： 高齢者の肥満・糖尿病を引き起こすベージュ脂肪細胞の機能低下に関与する原因遺伝子の同定および機能解析</p> <p data-bbox="422 1377 1449 1406">研究機関： Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School</p> <p data-bbox="422 1429 847 1458">研究指導者： Shingo Kajimura</p> <p data-bbox="422 1480 1235 1509">留学期間： 自 2022年4月 至 2024年3月 (2年間)</p>

海外留学助成 - 2 (2021 年度継続分 2 名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p>ひろはま だいごろう 広浜 大五郎</p> <p>帝京大学</p> <p>医学部内科学講座</p> <p>(助成期間 2 年間)</p>	<p>研究課題： 1 細胞解析を用いた糖尿病性腎臓病の病態解明</p> <p>研究項目： ・ 1 細胞解析を用いた、糖尿病性腎臓病における低分子 G 蛋白 Rac1 - ミネラルコルチコイド受容体経路の細胞特異的活性化意義の解明 ・ 糖尿病性腎臓病の新たな動物モデルの作製</p> <p>研究機関： University of Pennsylvania</p> <p>研究指導者： Professor Katalin Susztak</p>
<p>おおえ ゆうじ 大江 佑治</p> <p>東北大学</p> <p>東北メディカル・ メガバンク機構 地域医療支援部門</p> <p>(助成期間 2 年間)</p>	<p>研究課題： 腎糖代謝に着目した糖尿病血栓症の治療法開発</p> <p>研究項目： 糖尿病性腎症で血液凝固が亢進し、心血管リスクが上昇する。本研究は、糖尿病薬である SGLT2 阻害剤に凝固組織因子を抑制する多面的作用があるか明らかにし、糖尿病血栓症を予防するための新たな治療基盤を確立する。</p> <p>研究機関： カリフォルニア州立大学サンディエゴ校 腎臓内科</p> <p>研究指導者： Professor Volker Vallon</p>

外国人研究者招聘助成 (2022 年度 0 件)

なし

会議・シンポジウム助成（2022年度 3件）

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数/ 予定	主催機関
第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次 学術集会【Webハイブリッド形式】 2023年2月17～18日 一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）	横浜市立大学医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学教室 教授 寺内 康夫	135 /300名	日本糖尿病・肥満動物 学会
第33回日本糖尿病性腎症研究会 【Webハイブリッド形式】 2022年12月3～4日 金沢市文化ホール（金沢市）	金沢大学 学長 和田 隆志	406 /450名	第33回日本糖尿病性 腎症 研究会
第21回日本先進糖尿病治療・1型糖尿 病研究会【Webハイブリッド形式】 2022年10月8～9日 神戸商工会議所会館（神戸市）	D Medical Clinic Osaka 院長 広瀬 正和	207 /230名	日本先進糖尿病治療・ 1型糖尿病研究会

調査研究助成 - 1 (2022 年度新規分 5 件)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
自治医科大学 小児科 教授 嶋田 明 <small>しまだ あきら</small>	研究 課 題： 小児がん経験者がメタボリック症候群を早期に発症する要因の解明 研究 期 間： 自 2022 年 1 月 至 2024 年 12 月 (3 年間) 助 成 期 間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助 成 金 額： <u>2022 年度 200 万円</u> 2023 年度 200 万円 2024 年度 200 万円
滋賀医大内科学 講座 教授 前川 聡 <small>まへがわ ひろし</small> 横山内科 理事長 横山 宏樹 <small>よこやま ひろき</small> 一般社団法人糖尿 病データマネジ メント研究会 (JDDM)	全国多施設大規模共同研究による日本人糖尿病の生命・心血管疾患・ 腎機能の予後と時代効果 ー第一次コホート研究と第二次コホート研究の比較を踏まえてー 研究 期 間： 自 2022 年 1 月 至 2025 年 12 月 (4 年間) 助 成 期 間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助 成 金 額： <u>2022 年度 250 万円</u> 2023 年度 250 万円 2024 年度 250 万円
大阪大学医学系 研究科 内分泌・ 代謝内科学 講師 片上 直人 <small>かたかみ なおと</small>	研究 課 題： メタボロミクスによる糖尿病血管障害のバイオマーカー探索・リスク 予測モデルの作成と病態解明 研究 期 間： 自 2021 年 12 月 至 2026 年 12 月 (5.1 年間) 助 成 期 間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助 成 金 額： <u>2022 年度 250 万円</u> 2023 年度 250 万円 2024 年度 199 万円
東京大学 医学系研究科 糖尿病・代謝内科 客員研究員 門脇 孝 <small>かどわき たかし</small>	研究 課 題： 2 型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼ すより長期的な影響の検討 研究 期 間： 自 2021 年 7 月 至 2026 年 6 月 (5 年間) 助 成 期 間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助 成 金 額： <u>2022 年度 250 万円</u> 2023 年度 250 万円 2024 年度 250 万円
熊本大学生命科学 研究部代謝内科学/ 健康長寿代謝制御 研究センター 教授/センター長 荒木 栄一 <small>あらかみ えいいち</small>	研究 課 題： 常圧低酸素運動介入によるサルコペニア予防や、インスリン抵抗性 改善機序の解明 研究 期 間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助 成 期 間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助 成 金 額： <u>2022 年度 250 万円</u> 2023 年度 250 万円 年度 250 万円

調査研究助成 - 2 (2021年度継続分 3件)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
国立成育医療研究センター 分子内分泌研究部 部長 深見 真紀	研究課題： 小児期発症糖尿病患者の遺伝子診断システム確立と診療バイオマーカー開発 研究期間： 自 2021年4月 至 2024年3月 (3年間) 助成期間： 自 2021年4月 至 2024年3月 (3年間) 助成金額： 2021年度 250万円 <u>2022年度 250万円</u> 2023年度 250万円
神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学 教授 小川 渉	研究課題： メトホルミンによる腸管へのグルコース排泄作用の臨床的意義の解明 研究期間： 自 2021年1月 至 2023年12月 (3年間) 助成期間： 自 2021年4月 至 2024年3月 (3年間) 助成金額： 2021年度 250万円 <u>2022年度 250万円</u> 2023年度 250万円
東京女子医科大学 附属成人医学センター/糖尿病センター/統合医科学研究所/遺伝子医療センター 成人医学センター 所長・教授 岩崎 直子	研究課題： 日本人若年発症糖尿病原因遺伝子の網羅的解析と分子レベルの発症機構の解明 研究期間： 自 2021年4月 至 2023年3月 (2年間) 助成期間： 自 2021年4月 至 2023年3月 (2年間) 助成金額： 2021年度 250万円 <u>2022年度 250万円</u>

調査研究助成 - 3 (2020 年度継続分 4 件)

研究責任者	研究課題・助成期間・助成金額
山口大学 病態制御 内科学講座 准教授 おおた やすはる 太田 康晴	研究課題： ヒトにおける糖代謝の概日リズムと時計遺伝子との関連性の検討 助成期間： 自 2020 年 4 月 至 2023 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2020 年度：170 万円 2021 年度：170 万円 <u>2022 年度：160 万円</u>
千葉大学 内分泌 代謝・血液・老年 内科学 教授 よこて こうたろう 横手 幸太郎	研究課題： 肥満症に対する効果的な治療方法と合併する健康障害の改善に役立つ減量数値目標を見出すための介入研究 助成期間： 自 2020 年 4 月 至 令和 5 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2020 年度：170 万円 2021 年度：160 万円 <u>2022 年度：170 万円</u>
大阪大学 内分泌 代謝内科学 教授 しもむら いいちろう 下村 伊一郎	研究課題： 2 型糖尿病患者における冠動脈・膵・心筋・脾への異所性脂肪蓄積の実態調査と臨床的考察 - 多施設共同研究 - 助成期間： 自 2020 年 4 月 至 2023 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2020 年度：160 万円 2021 年度：170 万円 <u>2022 年度：170 万円</u>
京都大学 糖尿病 内分泌・栄養内科学 教授 いながき のぶや 稲垣 暢也	研究課題： 非侵襲的膵β細胞イメージング技術による 1 型及びインスリン依存状態糖尿病患者の病態調査 ～量的視点から～ 助成期間： 自 2020 年 4 月 至 2023 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2020 年度：250 万円 2021 年度：250 万円 <u>2022 年度：250 万円</u>

若手研究者調査研究助成 (2022 年度新規分 14 件、うち 1 件助成辞退)

《応募額通り 200 万円 10 件、うち 1 件助成辞退》

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
東北大学 生命科学研 究科 脳機能発達 あべ けんたろう 安部 健太郎	研究課題： 糖尿病に伴う脳変容機構の解明による予防法確立 研究期間： 自 2023 年 2 月 至 2024 年 7 月 (1.5 年間)
大阪大学 内分泌・代謝内科学 ふじしま ゆうや 藤島 裕也	研究課題： 糖尿病性細小血管障害・動脈硬化症に対する、血管組織・アディポネクチン/T-cadherin の役割の解明 研究期間： 自 2022 年 4 月 至 2026 年 4 月 (4.1 年間)
群馬大学 生体調整 研究所 代謝疾患医科学 しらかわ じゅん 白川 純	研究課題： 液性因子を介した新規膵β細胞量調節機構の解明 研究期間： 自 2022 年 4 月 至 2023 年 3 月 (2 年間)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
京都大学 糖尿病・ 内分泌・栄養内科 村上 隆亮	研究課題： 膵β細胞量標的治療の実現を目指した、膵β細胞増殖における小胞体ストレス応答経路の果たす役割の解明 研究期間： 自 2022年4月 至 2025年3月 (3年間)
大阪大学 内分泌・代謝内科学 西谷 重紀	研究課題： 脂肪細胞由来ケトン体が脂肪組織および全身糖代謝・臓器保護に及ぼす影響の解析 研究期間： 自 2023年2月 至 2025年1月 (2年間)
大阪大学 生化学・分子生物学講座 遺伝学教室 南 聡【助成辞退】	研究課題： オートファジー創薬の実現に向けた、ヒト糖尿病性腎臓病の病態解明 研究期間： 自 2023年1月 至 2025年12月 (3年間)
群馬大学生体調節研究所代謝シグナル解析 河野 大輔	研究課題： 肥満を誘導する脳内報酬経路の解明 研究期間： 自 2021年4月 至 2025年3月 (4年間)
大阪大学 内分泌・代謝内科学 奥野 陽亮	研究課題： 全長型 SREBP ユビキチンリガーゼ ARMC5 による SREBP 活性化 機構および内臓肥満制御機構の解明 研究期間： 自 2023年4月 至 2025年3月 (2年間)
千葉大学 代謝生理学研究室 波多野 亮	研究課題： 臓器間ネットワークを介した腎糖新生制御機構の解明 研究期間： 自 2023年4月 至 2025年3月 (2年間)
藤田医科大学 内分泌・代謝・糖尿病内科学 村尾 直哉	研究課題： β細胞 KATP チャネルを中心とする新たな糖恒常性維持機構の解明 研究期間： 自 2022年4月 至 2025年3月 (3年間)

《次点×0.8 180万円 4件》

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
大阪大学 腎臓内科学 松本 あゆみ	研究課題： 人工知能を用いた悉皆的腎生検病理画像情報解析に基づく糖尿病性腎臓病(DKD)プレジジョンメディシンの確立 研究期間： 自 2023年3月 至 2025年2月 (2年間)
国立成育医療研究センター母性内科 三小田 亜希子	研究課題： 持続血糖モニタリングに基づいた妊娠糖尿病治療プラットフォームの構築 研究期間： 自 2022年9月 至 2024年9月 (2.1年間)
北海道大学遺伝子病制御研究所幹細胞生物学 孫 ユリ	研究課題： 脂肪組織機能不全とインスリン抵抗性に関与する新規制御メカニズムの解明と糖尿病治療への応用可能性の検討 研究期間： 自 2023年1月 至 2024年12月 (2年間)
神戸大学 糖尿病・内分泌内科 菅原 健二	研究課題： メトホルミンが生体内の金属動態に与える影響およびその意義の解明 研究期間： 自 2022年10月 至 2024年9月 (2年間)

2) 褒賞事業

2022年度（第15回）糖尿病療養指導鈴木万平賞

【個人】	
佐藤 利昭 氏（隠岐の島町国民健康保険五箇診療所 所長）	
推薦者	谷澤 幸生 氏（日本糖尿病学会 常務理事 中国四国支部長）
選考理由	<p>島根県における糖尿病医療地域格差克服のためメディカルスタッフ教育に取組み、また島根県全域に亘って、糖尿病診療のネットワーク造りに努力して、地域における糖尿病療養レベル向上へ多大に貢献した。さらには離島の診療にも活動の場を広げて地域包括ケアを推進している。</p> <p>これらの活動には一貫性があり、人材や医療資源が必ずしも十分ではない日本全国の地方・僻地における糖尿病療養指導のモデルケースとして波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。</p>
【団体】	
特定非営利活動法人 国際糖尿病教育学習研究所（代表者 芳野 原 氏）	
推薦者	小川 渉（日本糖尿病学会 理事）
選考理由	<p>NPO 法人として 25 年の長きに亘り兵庫県を中心に医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士等を対象とした各種研修会を開催し、糖尿病の教育啓蒙活動を行っている。</p> <p>2009 年より東京地区にも活動を広げ、年 4 回程度研修会を開催している。コロナ禍の 2020 年に入ってから、ハイブリッド方式で研修会を再開した。設立以来、延べ 1 万人を超える参加者があり、糖尿病療養指導士を目指す指導者に長年に亘り研修環境を提供し、その質向上に貢献した。</p> <p>これらの活動は長きに亘り、一貫性があり、その波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。</p>

2022年度（第15回）鈴木万平記念糖尿病国際賞

<p>受賞者</p> 	<p>Professor Dame Frances M Ashcroft DBE FRS, FMedSci Department of Physiology, Anatomy & Genetics University of Oxford</p>
<p>推薦者</p>	<p>① Stefano Del Prato Professor, President EASD (European Association for the Study of Diabetes) ② Laura Alonso, MD Herbert J. and Ann L. Siegel Distinguished Professor of Medicine, Chief, Division of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Director, Weill Center for Metabolic Health Weill Cornell Medicine</p>
<p>選考理由</p>	<p>The Selection Committee highly recognized her pioneering and groundbreaking contributions over years to disclosing mechanistic functions of the KATP channel in glucose-stimulated insulin secretion and to identifying neonatal diabetes caused by KATP gene mutations, which transformed both our understanding of mechanisms of insulin secretion and the lives of patients with a severe form of diabetes.</p> <p>《日本語訳》 同博士は、グルコース刺激によるインスリン分泌における KATP チャンネルの機能を明らかにするとともに KATP 遺伝子変異で生じる新生児糖尿病を特定し、インスリン分泌機序に関する人々の理解を変え、重症糖尿病患者の生活を一変させました。審査委員会はこれらの功績を、長年に亘る、先駆的で画期的な貢献と高く評価しました。</p>

3. 2023 年度公益目的事業

1) 助成事業（公 1）

2022 年度第 1 回理事会（2022 年 6 月 1 日）で募集要領の承認を得て、8 月 1 日から 9 月 30 日まで 4 つの助成事業の募集を行った。

申請資料に基づき 2022 年 11 月 4 日の選考委員会で、2023 年度助成候補（海外留学助成 6 名、会議・シンポジウム助成 4 件、調査研究助成 4 件）が選出された。

また、同委員会で中間報告に基づき、調査研究助成（2021 年度 3 件、2020 年度 4 件）の助成継続が了承された。

一方、外国人研究者招聘助成への応募はなかった。

選考にあたり、利益相反に接触すると判断されたため、海外留学助成に関して 2 名、会議シンポジウム助成で 2 名、調査研究助成に関して 2 名の選考委員は当該助成の審議には加わらなかった。

但し、今年度より対象となる応募案件の評価はしないが、他の応募案件については評価*を行い、審査には加わらないことになった。

海外留学助成候補者 6 名については、2022 年 11 月 18 日の面接選考会にて語学力を審査し、6 名全員を適格と判定した。

これら助成候補は、2022 年度第 2 回理事会（2022 年 12 月 16 日）で審議され、選考委員会・面接選考会での選考結果のとおり承認された。

なお、海外留学助成決定者には助成決定証書の授与及び提出書類等の説明のために、2023 年 1 月 13 日にオリエンテーションを実施した。

（※当該助成における A と B の評価数の和は助成予定件数以上とする）

2) 褒賞事業（公 2）：2023 年度（第 16 回）鈴木万平糖尿病国内賞

2022 年度第 1 回理事会（2022 年 6 月 1 日）で募集要領の承認を得て、7 月 11 日から 9 月 12 日まで募集を行った。

推薦資料に基づき 2022 年 10 月 6 日の国内褒賞審査委員会で審査を行い、受賞候補 2 件（個人 1 名、チーム 1 件）を選出した。

審査結果は、2022 年度第 2 回理事会（2022 年 12 月 16 日）で審議され、審査委員会の審査結果のとおり承認された。

3) 褒賞事業（公 3）：2023 年度（第 16 回）鈴木万平糖尿病国際賞

2022 年度第 1 回理事会（2022 年 6 月 1 日）、第 2 回理事会（2022 年 12 月 16 日）で募集要領の承認を得た。

附属明細書

1) 助成事業(公1)

海外留学助成 (2023年度 6名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p style="text-align: center;">シ ン ジ ュ フ ン Shin Jihoon</p> <p style="text-align: center;">大阪大学 医学研究科</p> <p style="text-align: center;">糖尿病病態医療学 寄附講座</p>	<p>研究課題： 感染症による脂肪細胞機能異常と新規糖尿病発症機序の解明</p> <p>研究項目： ① 感染症における脂肪細胞の感染/機能破綻経路と全身代謝・病態への影響の検討 ② 感染症における褐色脂肪細胞及びベージュ脂肪細胞の防御・予防・治療的な作用可能性の検討</p> <p>研究機関： Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Shingo Kajimura</p> <p>留学期間： 自 2023年4月 至 2025年3月 (2年間)</p>
<p style="text-align: center;">ふ じ も と ま き の り 藤本 真徳</p> <p style="text-align: center;">千葉大学 医学部附属病院</p> <p style="text-align: center;">糖尿病代謝 内分泌内科 臨床試験部</p>	<p>研究課題： G6pc-high 肝細胞と Slc25a44 の代謝における役割を空間的遺伝子解析から明らかにする</p> <p>研究項目： 申請者は一細胞解析を行い、糖新生酵素 G6pc を高発現する肝細胞が、糖新生基質の輸送蛋白である Slc25a44 を高発現することを見出した。Kajimura 教授が開発した独自の Slc25a44 解析系、空間的遺伝子発現解析を用いて、Slc25a44 の機能を局在と共に解明し、新たな糖尿病治療標的を見出す。</p> <p>研究機関： Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Shingo Kajimura</p> <p>留学期間： 自 2023年4月 至 2026年3月 (3年間)</p>
<p style="text-align: center;">な が い よ う す け 永井 洋介</p> <p style="text-align: center;">東京慈恵会医科 大学内科学講座</p> <p style="text-align: center;">糖尿病・代謝・ 内分泌内科</p>	<p>研究課題： KLF15 による糸球体エネルギー代謝制御機構の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病腎症の成因として腎臓における脂肪酸代謝異常が注目されている。申請者は糸球体においても脂肪酸利用障害が腎症進展に深く寄与することを報告した。本研究では、全身に広く発現し代謝制御に深く関わる KLF15 について、いまだ明らかではない糸球体エネルギー代謝制御機構への関与を明らかにすることを目的とする。</p> <p>研究機関： Brown University</p> <p>研究指導者： Mukesh K. Jain</p> <p>留学期間： 自 2023年4月 至 2025年3月 (2年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
すぎもと たいき 杉本 大貴 国立長寿医療 研究センター 予防科学研究部	研究課題： 高齢者糖尿病の認知症発症リスクスコアの開発と脳病理の解明 研究項目： 糖尿病に合併する認知症は、加齢や家族歴などの古典的リスクと高血糖や重症低血糖の既往など糖尿病に起因するリスクが集積することで脳病理が促進され認知症へ進展するとされている。本研究は、糖尿病の認知症発症を予測するリスクスコアを作成するとともに、剖検脳を用いてリスク集積により進展する脳病理を明らかにする。 研究機関： University of Washington 研究指導者： Paul K. Crane 留学期間： 自 2023年8月 至 2025年8月（2年間）
おおもり かずの 大森 一乃 北海道大学 医学研究院 免疫・代謝 内科学教室	研究課題： 糖代謝制御による糖尿病病態下の膵β細胞量保護の研究 研究項目： グルコキナーゼをはじめとする解糖系の酵素や膵β細胞の環境の調節によって糖尿病状態における代謝ストレスを軽減し、進行的な膵β細胞の障害、機能、膵β細胞量の低下を予防しうるかについて動物検体、及びヒト検体を用いて検討する。 研究機関： MAYO Clinic 研究指導者： Aleksey V. Matveyenko, Ph.D. 留学期間： 自 2023年4月 至 2025年3月（2年間）
やの せいいち 矢野 誠一 九州大学 医学研究院 病態制御内科学	研究課題： マクロファージの LXR を標的とした NASH 、インスリン抵抗性および心血管疾患の予防・治療戦略の開発 研究項目： 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)と心血管疾患は糖尿病の主要な合併症である。近年 NASH と動脈硬化の共通病態として、肝臓と動脈壁のマクロファージにおける肝 X 受容体(LXR)の機能低下が示唆されている。留学先が最近見出した新規 LXR リガンドの作用機序や有用性、インスリン抵抗性への影響を検討する。 研究機関： University of California San Diego 研究指導者： Christopher K. Glass 留学期間： 自 2023年4月 至 2026年3月（3年間）

外国人研究者招聘助成（2023年度 0件）

応募なし

会議・シンポジウム助成（2023年度 4件）

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数/主催機関
<p>第73回日本体質医学会総会 2023/09/09～09/10</p> <p>順天堂大学 小川講堂・有山記念館講堂 (東京都)</p>	<p>順天堂大学 医学研究科 代謝内分泌内科学 教授 綿田 裕孝</p>	<p>200人 第73回 日本体質医学会総会</p>
<p>第22回日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会 2023/11/04～11/05</p> <p>昭和大学上条記念館 (品川区)</p>	<p>昭和大学 内科学講座 糖尿病代謝内分泌内科部門 准教授 福井 智康</p>	<p>230名 日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会</p>
<p>第34回日本糖尿病性腎症研究会 2023/12/02～12/03</p> <p>都市センターホテル (千代田区)</p>	<p>日本大学 内科学系腎臓高血圧 内分泌内科学分野 主任教授 阿部 雅紀</p>	<p>450名 第34回日本糖尿病性腎症研究会</p>
<p>第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次 学術集会 2024/03/15～03/16</p> <p>弘前大学50周年記念館 (弘前市)</p>	<p>横浜市立大学 医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学教室 教授 寺内 康夫</p>	<p>300名 日本糖尿病・肥満動物学会</p>

調査研究助成（2023年度 4件）

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
<p>こだま さとる 児玉 暁 新潟大学 医歯学 総合研究科 生活習慣病予防・ 健診医学講座</p>	<p>研究課題： メタ解析に基づく、糖尿病合併妊婦の集中血糖管理による血糖改善効果と、母体・胎児予後改善効果との関連性の系統的調査</p> <p>研究期間： 2023年1月～2024年12月（2年間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2025年3月（2年間）</p> <p>助成期間： <u>2023年度200万円</u>、2024年度 200万円</p>
<p>たかはら みつよし 高原 充佳 大阪大学 医学系研究科 糖尿病病態 医療学寄附講座</p>	<p>研究課題： 糖代謝異常合併妊娠における持続グルコースモニタリングを用いた血糖管理指標の検討</p> <p>研究期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成金額： <u>2023年度250万円</u>、2024年度250万円、2025年度250万円</p>
<p>よこて こうたろう 横手 幸太郎 千葉大学 内分泌代謝・ 血液・老年内科学</p>	<p>研究課題： 肥満症に対する減量介入が2型糖尿病を含む健康障害の長期的な改善に及ぼす効果を検証するレジストリ研究（SLIM-TARGET フォローアップ）</p> <p>研究期間： 2018年4月～2026年3月（8年間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成金額： <u>2023年度250万円</u>、2024年度250万円、2025年度250万円</p>
<p>かわかみ えいりょう 川上 英良 千葉大学 医学研究院 人工知能(AI)医学</p>	<p>研究課題： 人工知能技術を用いた糖尿病性腎臓病の発症・増悪機構の解明と最適な個別介入方法の提案</p> <p>研究期間： 2022年10月～2026年3月（3年6ヵ月間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成金額： <u>2023年度250万円</u>、2024年度250万円、2025年度250万円</p>

2) 褒賞事業(公2)

2023年度(第16回)鈴木万平糖尿病国内賞

[個人]	
小出 景子 氏 (公益財団法人ライフ・エクステンション研究所附属永寿総合病院 糖尿病臨床研究センター センター長補佐)	
推薦者	綿田 裕孝 (日本糖尿病学会 常務理事)
選考理由	<p>CGM や CSII などの先進機器に関する研究として血糖値の見える化やインスリンポンプ治療の適正安全な使用を進め、血糖値データと患者の生活情報等を突合し解析支援する「データマネジメントシステム (DMS) 指導」の考案・実践に精力的に取り組んできた。</p> <p>各種学会における活動も活発であり、また多くの執筆活動を行って議論の場を広げており、職種や地域を越えて、糖尿病治療の先進機器分野への医療スタッフの理解向上に大きく貢献した。</p> <p>これらの活動は長きに亘り、一貫性があり、その波及効果も大きく、上記の業績は本賞に値する。</p>
[チーム]	
佐賀県糖尿病コーディネート看護師 (佐賀大学医学部附属病院看護師長、慢性看護専門看護師、日本糖尿病療養指導士認定機構理事 永渕 美樹 氏)	
推薦者	安西 慶三 (日本糖尿病協会 常任理事)
選考理由	<p>糖尿病専門医の少ないエリアとしての佐賀県内において、「糖尿病コーディネート看護師」が活動を広げ、県内における糖尿病患者を地域で連携して治療するため、医療機関に出向いてスタッフ向けの糖尿病教室、インスリン治療導入、連携手帳導入などの診療支援を行っており、佐賀県内の糖尿病医療水準の向上に大きく貢献した。</p> <p>都道府県国保ヘルスアップ支援事業の中で人材の確保・育成事業のモデルとなっている。</p> <p>これらの活動には一貫性があり、人材や医療資源が必ずしも十分ではない日本全国の地方・僻地における糖尿病療養指導のモデルケースとして波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。</p>